

看護管理者のマネジメント過程に沿ったがん看護専門看護師の活用方法に関する研究 —看護管理者とがん専門看護師の相互作用に着目して—

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2023-09-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 清水, 裕子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/0002000005

氏 名：清水 裕子

学位の種類：博士（看護学）

学位記番号：甲 第 49 号

学位授与年月日：令和3年3月22日

学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当

論文題目：看護管理者のマネジメント過程に沿ったがん看護専門看護師の活用方法に関する研究 ―看護管理者とがん専門看護師の相互作用に着目して―

論文審査委員：主査 教授 池田 真理

副査 教授 長江 弘子

副査 教授 青木 雅子

論文内容の要旨

I. はじめに

看護管理者（以下、管理者）の役割は組織目標の達成に向け人的資源を活用することであり、専門性の高い看護師をマネジメントする能力が求められている。管理者が専門看護師を活用し、目標を達成していると感じている一方で、専門看護師は管理者の理解不足などを理由に職務上の困難を感じている。この違いについて、マネジメント過程における二者の関係性を明らかにした研究はない。

II. 目的

がん看護専門看護師（以下、OCNS）とその直属の上司である管理者を対象に、管理者の組織目標の達成に向けたOCNSへの関わりをマネジメント過程（計画、組織化、指揮、統制）に沿った相互作用から明らかにすることを目的とする。

III. 方法

OCNSとその直属の上司となる管理者のペア8組を対象に、半構造的面接を2回ずつ行った。分析は、Grounded Theory Approachの継続比較分析を用いて行った。

第1段階として逐語録からマネジメント過程に沿ってペアごとに管理者の関わりとOCNSの応答をコード化、小カテゴリーを抽出し、個票を作成した。第2段階は、管理者、OCNSそれぞれの小カテゴリーをマネジメント過程ごとに統合し、中カテゴリー、大カテゴリーを作成した。第3段階では、管理者、OCNSの大カテゴリーをマネジメント過程ごとに統合し、相互作用に着目して両者の関わり合いを記述した。東京女子医科大学倫理審査委員会の承認を得た（承認番号：5109, 5109-R）。

IV. 結果

マネジメント過程である「計画」「組織化」「指揮」「統制」の段階ごとに管理者と OCNS の結果について述べる。計画の段階では、管理者は【OCNS の実践力を知り組織への貢献を期待する】など 4 大カテゴリーが、OCNS は【管理者からの期待を自覚し目標達成に向けて計画する】など 3 大カテゴリーが抽出された。組織化の段階では、管理者は【OCNS が期待に応える活動ができるように配置・職位を十分考える】など 2 大カテゴリーが、OCNS は【与えられた役割を果たし自分を活かせる活動を管理者に提案する】など 2 大カテゴリーが抽出された。指揮の段階では、管理者は【OCNS の主体的な活動を支持し支援する】など 3 大カテゴリーが、OCNS は【目標達成のための活動を主体的に考えて遂行する】など 3 大カテゴリーが抽出された。統制の段階では、管理者は【OCNS の活動を評価し次年度につなげる】など 2 大カテゴリーが、OCNS から【目標達成度と役割遂行状況を自己評価し次年度につなげる】など 3 大カテゴリーが抽出された。

大カテゴリーを統合した結果、両者の関わり合いは《計画；管理者は OCNS の能力を見極め相応の役割を探り、OCNS は自己アピールをしながら管理者の期待に応える方法を模索する》、《組織化；管理者は OCNS の活動の基盤を調整し、OCNS はその基盤に適応しつつ管理者の意図を汲んで活動を発展させる》、《指揮；管理者は状況に応じた働きかけをして OCNS の活動を見守り、OCNS は自律して手段を見つけ実行する》、《統制；管理者は OCNS の貢献による目標達成を実感し、OCNS は状況から期待に応じていると認識する》となった。

V. 考察

対象となった管理者は、組織目標の達成に向けて貢献することを OCNS に期待し、活動するための環境を整え、その後は OCNS の活動を見守るなど OCNS のへ関わりの度合いを変化させていた。OCNS は管理者からの期待を自覚することで専門性を活かした活動を計画し、主体的に役割を遂行することができた。目標達成状況はあえて共有せず、それぞれで評価していた。管理者がマネジメント過程における計画と組織化の段階で OCNS と意思疎通を図ることで、OCNS が組織の一員であることを認識し、役割遂行につながることを示唆された。

論文審査結果の要旨

我が国の少子超高齢化対策の一つとして高度先端医療における看護の役割拡大が求められ、専門看護師などの高度実践看護師の裁量権拡大に向けた動きがある。本研究は、そうした高度実践看護師の有効活用に向けて看護管理者のマネジメント過程に基づいてがん看護専門看護師と看護管理者の相互作用を焦点に「関わり方」の特徴を描き出したものである。マネジメントにおいて看護管理者と高度実践看護師が互いに有効に関わりあって、看護の質を上げていくプロセスを、目標の共有化やコミュニケーションを軸に明らかにしたことは、今後の組織マネジメントに活用できる研究結果であり、研究の成果は看護管理者が活用でき、さらに専門看護師への組織へのコミットの仕方への示唆もあった。看護管理学に貢献する貴重な研究であり看護学の発展に資する研究であることから、博士論文として適当と思われる。